

2018年7月15日

福音書からのメッセージ

十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。

(マルコによる福音書6章12節)

イエス様は12人を遣わしたとありました。その12人は、以前イエス様が選ばれた12弟子のことでしょう。彼らはどのような気持ちで、宣教に向かったのでしょうか。ある映画に、この場面が出てきました。彼らはイエス様に「行ってこい」と命じられるのですが、とても不安そうにしていたのを思い出します。

彼らは弟子としてイエス様にしっかり教育されたかという、そうでもなかったように思います。それどころか聖書は、最後までイエス様のことを理解できなかった弟子たちの姿を描きます。イエス様を裏切り、疑い、逃げ出した彼ら。とても「宣教者」としての教育を受けたようには思えません。

また彼らは、パンも金も持っていくなども命じられます。教育も満足にされず、何も持たずに遣わされる。彼らが不安な顔をするのもよくわかります。それでも12人は出かけ、宣教しました。

今日の記事は、「12人」が宣教に向かった記事でした。12弟子とは書かれていません。最初イエス様が声を掛けたのは、確かに弟子だったでしょう。しかしこの物語は、今に至るまでずっと続けられている物語です。つまり2000年もの間、次の人たち、次の人たちとイエス様はずっと派遣され続けているのではないのでしょうか。

わたしたちは礼拝の中で、毎週「派遣」されています。聖餐式の最後に「ハレルヤ、主と共に行きましょう」、「ハレルヤ、主のみ名によって」と、「派遣の唱和」を大きな声で叫びながら、わたしたちは教会の外へと遣わされていくのです。



何を誰に伝えたらいいかわからない、そんな役目を自分が担えるはずがないと躊躇するかもしれません。でもそれは、最初に派遣された弟子たちも一緒でした。

自分たちがそのような器でないことは、一番よくわかっていたとおもいます。

そこが一番大切なことです。イエス様は「何も持っていくな」と命令されました。彼らは自分の持ち物に頼ることはできなかったのです。自分の力では何もできない、そのことを彼らは身をもって体験します。しかし「何も持たな」という言葉は、すべては神さまが準備してくださるという約束の裏返しです。何も持っていないのではない、必要なものはすべて与えられているのです。

わたしたちは自分の足で立ち、何でもできると思っていないのでしょうか。日々神さまに生かされ、支えられていることを感じてはいませんか。だからこそ、わたしたちは今、ここにいるのではないのでしょうか。

「宣教」、それは決して自分の力だけでやれるものではないのです。自分にそのような力がないからこそ、神さまはその人を用いてくださいます。弱いからこそ、神さまによって強められるのです。さあ、主と共に行きましょう！

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>